

中学校音楽科における基礎教育の研究

佐 伯 正 一

I 研究目的

今日の中学校の音楽教育には色々の問題はあるが、中でも高校入試のあり方と、教科書内容の点について取り上げてみたいのである。

高校入試問題は音楽教育本来の問題から、多少ずれているのではないか。これは紙面テストにのみよらざるを得ない実状から、一時は全く知識偏重になつた。しかしその後次第に音楽そのものに結びつく傾向に変つたとはいゝ、テスト方法の制約から、音楽本来の問題に完全に結びつけることは仲々困難であろう。しかし、このことが中学校音楽教育をゆがめ、障壁となつている場合が多いというのが現状ではなかろうか。

次に教科書の問題であるが、教科書は学習指導要領に示されてある内容を、実際面によりよく生かし、最も効果的に指導出来るように編集さるべきであろう。それでこそ、教師も生徒も教科書を中心に、これをいかに指導し、いかに学ぶべきかを考えることによって教育がよりよく推進されていくものであろう。

しかし從来、教科書に頼るだけでは本来の音楽教育は、比較的労多くして効が少く、教師は各人各様、五里霧中で来る年も次の年も、教育をレールに乗せて推進することは、かなり困難事であったのではないか。今日なお教師の実力いかんが強く云々されているが、私はそれと同様か、それ以上に教科書の内容上の欠陥を強調したいのである。

教科書の現状は、歌曲ではある程度考慮されていても、歌唱の基礎面にしても、創作面にしても、又鑑賞基礎面にしても、指導内容が比較的に貧弱であった。幸に今度の新学習指導要領は、從来の不可能に近い観念的理點を掲げたものから脱却して、実際指導面に立脚しようとした点で、本来の音楽教育に大きく近づいたことは喜ばしいことである。

この点で今後の教科書は前述したような、歌唱基礎

面、創作面、鑑賞基礎面等について、充分手を尽した教科書の出現を望むものである。

これでこそ、実際現場の教師が軽い負担でよりよい教育の実現を計ることの出来る一つの大きな活路ではなかろうか。

私は基礎面を考慮しながら教科書中心に教育し、今日に至っているが、かくして教育を受けた生徒は実際に音楽の基礎学力がどのように身についているかを調査し、それが今後の音楽教育問題に何を考えさせるかを研究したのである。

II 研究方法

1. 生徒は音楽教育を他教科と比較してどうみているか。（全生徒について）
2. 基礎音感覚と音楽の美的感覚及び知能との関係についてどうか。（中1全生徒について）
3. 音楽学習の基礎学力の程度はどうか。（全生徒について）
4. 歌唱困難な生徒の基礎学力と音感覚はどうか。
5. 音楽学習の表現と鑑賞をどう考えているか。（全生徒について）
6. 高校進適問題（本校昭和33年のもの）からみた生徒の学力について。

III 研究経過の概要

1. 音楽の重要性について他教科と比べて生徒はどのように考えているか。

対象＝全生徒 308名 昭和31年調査。既発表詳細略。

- (1) 音楽は他教科と重要性に区別がつけられるか。

区別がない	28%
区別がある	69%
わからない	3%

- (2) 各教科で大切と思われる学科と、それ程大切と思わない学科について

	国	社	数	理	英	体	音	図	習	家	職
大切と思われる学科 (%)	14.8	15.8	18.4	16.5	17.9	5.8	1.7	1.4	2.1	3.0	2.6
大切と思われない学科 (%)	1.4	1.0	0.1	0.3	0.8	10.6	18.3	20.8	18.2	16.7	11.7

中学校音楽科における基礎教育の研究

上表によって音楽科は他教科（国・社・数・理・英）に比べて大切と考えていない者が大変多いようである。このことは生徒自身が他教科に対しては、好嫌に余り関係なく積極的な意欲を燃やさざるを得ないが音楽科については、好嫌が強く学習上に影響している点でハンディ・キャップのあることを教師は考えなければならない。

そこで音楽学習に興味を持たせるということが、必要条件となってくる。

この学習の興味には、教材に対するもの、教師の人となりに対するもの、教師の指導法に対するものなど種々考えられるが、私は、この他にもっと大切なものつまり生徒に音楽の美を感じさせる教育が必要であると考えた。そこで中一を対照に便宜上昭和32年度の全国高校入試の問題の中から旋律に対する音感覚のものを選び、読譜によってではなく、ピアノの音によって判断させたところ案外的確であったことを示した。そこで基礎音感覚（階名判断力、リズムの判断力）などの優劣と、読譜や旋律の音感覚、知能との関係を調べたものを次に掲げる。

2. 基礎音感覚と音楽の美的感覚及び知能との問題について

対象＝中1196名、昭和32年度調査既発表詳細略。基礎音感覚の優劣それぞれ20名について調査（数字は人数）。

(1) 読譜力との関係

		悪	普通	良
視唱 C	劣	14	6	0
	優	1	10	9
階名読 F G	劣	15	2	3
	優	0	10	10

基礎音感覚の優れた者は読譜力もよいので、関係があることが考えられる。

(2) 旋律に対する音感覚との関係

誤答数	0	1	2	3	4	5	6
劣	5	6	3	2	1	1	2
優	2	5	9	3	1	0	0
学生全体の人数	14	27	27	14	8	1	2

基礎音感覚の優劣は旋律に対する音感覚とは余り関係ない。

(3) 知能との関係

知能偏差値	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80
劣	1	2	4	9	3	1
優	0	0	2	8	8	2

基礎音感覚の優劣は知能とは関係はない。

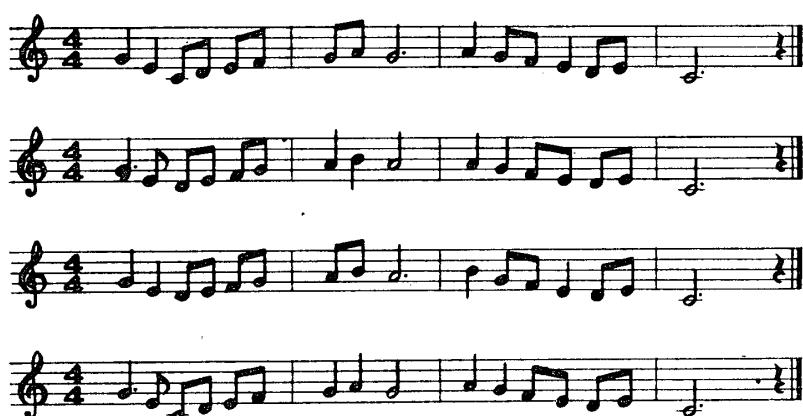
3. 音楽学習の基礎学力の程度はどうか。（対象＝全生徒292名、昭和33年度調査）

(1) 旋律判断 次の4種の旋律を示し、譜を各自読ませてからピアノ（3回弾く）でひいた旋律を選ぶ法。

中1



中2



共同研究

中3

	正答 (△)	リズム誤 (×)	音程誤 (□)	リ・音誤 (△)
中1	56%	9%	24%	11%
中2	69	1	28	2
中3	82	1	12	5

	良	普通	悪
中1	46	20	34
中2	45	19	36
中3	30	25	45

(2) 階名判断 次の旋律を見せないでピアノ（3回弾く）できくだけ階名を書く法

中1,2

中3

良—完全と1カ所のまちがい

普通—2又は3カ所のまちがい

悪—4カ所以上のまちがい

(3) 長短調及び拍子判断 次の旋律をみせないでピアノ（3回弾く）でひいたものを長短調及び拍子を選ぶ法。

中1

中2

中3

$\frac{2}{4}$ $\frac{3}{4}$ を示す

$\frac{2}{4} \frac{3}{4} \frac{4}{4}$ を示す

$\frac{3}{4} \frac{4}{4} \frac{6}{8}$ を示す

	正答	誤答
中1	58	42
中2	89	11
中3	64	36

拍子

	正答	誤答
中1	46	54
中2	54	46
中3	34	66

(数字は%)

(4) 創作力 次の譜に創作する法

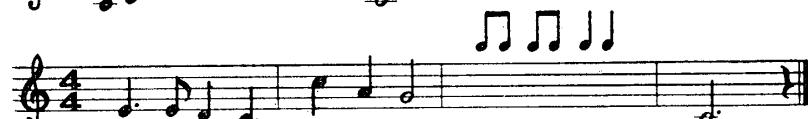
中1



中2



中3



	良	普通	悪
中 1	55	23	22
中 2	52	36	12
中 3	28	40	32

(数字は%)

(5) 鑑賞曲把握 レコードによって次の3曲のそれぞれ始めの部分を1回聞かせ、その中から1曲を選んでもう1度聞かせて、どの曲であったかを答える法。

中1 ウィリアムテル序曲（終曲）
星条旗よ永遠なれ

軽騎兵序曲
中2, 3 ジュピター交響曲
悲愴交響曲
新世界交響曲

	正	誤
中 1	79	21
中 2	98	2
中 3	95	5

(数字は%)

4. 歌唱困難な生徒の基礎学力と音感覚はどうか。
(次のa～hまでの11名を対象、昭和33年度調査)

	全 体 調 査									個 人 調 査					
	知的 理解	旋律 聴音	旋律 判断	階名 判断	長判 短 調断	拍子 判断	創 作 力	把鑑 握賞 力力	音の 楽好 作業み	鑑賞 好み	声 域	音表 現 程力	既判 習 曲断	生障 理 的害	
a	△	×	×	(音)	×	×	×	○	器	童	h～à	?	○	なし	
b	△	×	○	×	×	×	×	○	器歌	×	a～g	?	○	"	
c	×	×	×	(音)	×	×	×	○	○	歌	童	a～g	?	○	"
d	×	×	×	(リ)	×	○	×	○	×	×	×	×	×	○	"
e	△	×	×	(音)	×	○	×	×	○	器歌	オーチ 流行	f～c	可能性	○	"
f	△	×	×	(リ)	△	○	×	△	○	歌	オーチ ピアノ	g～f	?	○	"
g	△	△	×	(音)	×	×	×	○	×	×	×	×	○	"	
h	○	△	×	(音り)	○	○	○	○	○	理	合唱 オーチ	A～a	?	○	"
i	○	△	○	×	○	○	×	○	○	理	○	×	○	"	
j	×	×	○	×	○	×	×	○	○	理	オーチ ピアノ	H～h	?	○	"
k	×	△	×	(音)	△	×	○	×	○	器	バイオ ジャズ	A～f	?	○	"

○印……よくできる。

△印……多少よくない。

×印……悪い。

共同研究

全生徒に歌唱テストを行った処、旋律を全くとれない者が30名位いたので、個人指導を行った結果なおかつ歌唱不能と思われる者が11名残った。上表はその者に対する諸調査である。

個人調査欄の音程表現力の?印は、音程がとれたり、とれなかったりして全く不安定の者である。×印は全く音がとれない音痴に属すると考えられる者である。

この11名の者に対して発声器官および聴覚器官の障害の有無を医学部で調べて貰ったところ、特別に異状はないし、聴力検査も正常という解答であった。

また、鑑賞曲をきいた場合、曲の把握が出来るかどうか、既習曲の区別が出来るかどうかを調査したところ、この点も他の正常の生徒と何等異なるところがない。

しかし、旋律判断、階名判断、長短調判断、拍子判断などについては、他の正常な生徒に比べて大分劣っている事実が分った。

従って歌唱困難な生徒は、鑑賞の旋律をつかむことには変りはないが、音楽の基礎学力や諸音感には劣っているので、音楽学習の諸作業に困難を感じ、なおよりよい鑑賞を進めるためにも、大いに困難を感じるのではないか。であるから歌唱困難な生徒の音楽教育をどうしたらよいかという問題を進めることが重要であろうと思えている。

5. 高校進適問題からみた生徒の学力について

次の問題は本校の昭和33年度の高校進適問題で、受験者603名について調査したものである。

- (1) 下の文は次の曲譜について述べたものです。この中から正しいものを一つ選んで、その記号を書き入れなさい。※

※ イ. この曲は嬰ヘ音を使っているト長調で、二部形式の曲です。

ロ. この曲は aa' bb' の二部形式で、嬰ヘ音を使っていないホ短調の曲です。

ハ. この曲は aa.bb' の二部形式ですが、転調していないホ短調の曲です。

ニ. この曲は嬰ヘ音を使ったホ短調で、bの部分が転調している aa' ba' の二部形式の曲です。

下表は各解答を%で表わしたものである。(?) *

* が正答である。ハの誤答者が最も多いことに注目しなければならない。

イ	ロ	ハ	(?)	無記入
11	8	44	33	4

- (2) 次の曲の |___| の印に一つずつ和音(T. S. D)をあてはめるとすれば下の和音列のどれが正しいでしょうか。その記号を書き入れなさい。

イ, T-S-S-T
T-S-T-D-T

ロ, T-S-T-D
T-S-D-D-T

ハ, T-S-T-D
T-S-T-D-T

ニ, T-S-D-T
T-S-T-D-T

イ	ロ	(ハ)	ニ	無記入
6	9	64	16	5

(3) 次の曲は、ある生徒の作ったものです。これをA, B, Cの3人の生徒が、それぞれピアノでひいたところ、正しくひいた者は1人でした。そ⊗



A	B	C	無記入
13	41	16	30

(4) 月光の曲、田園交響曲を録音によって放送。

次に演奏される2曲は、いずれも有名な曲の初めの部分です。これは2曲とも同一のある有名な作曲家の作品です。それは誰ですか。下の作曲家の中から選んで、その番号を書き入れなさい。

1. バッハ
2. ハイドン
3. モーツアルト
4. チャイコフスキー
5. ベートーベン

1	2	3	4	⑤	無記名
7	7	25	23	37	1

正答は2問はハ、3問はB、4問は5で、各問題の表の数字は%を示したものである。3、4問は録音によってテストしたものであるが、特に4問は鑑賞についての問題であるが、一般に出題されているのは、曲名と作曲者を結ぶ形で出題されているので、勉強も音楽として勉強するのではなくて、簡単に曲名と作曲者を結ぶ記憶の問題として勉強しているのではなかろうか。いずれにしてもこの4問の正答は割合に低調であったと思う。

IV 現在までの成果

音楽学習は音楽作業の歌唱、器楽、創作、鑑賞 *

⊗ れではこれから、そのA, B, C 3人のひいた録音をかけますから、よく聞いて正しいものをA, B, Cの記号で答えなさい。

今から1分くらい、時間をおきますから、声を出さないで譜をよく見なさい。※

* 等が相互関連して有機的に行われることが望ましい。それが学習効果をあげる上に重要であることはいうまでもない。研究目的で述べたように、教科書の内容上の欠陥は教師の負担を重くし、よりよい学習効果をあげられない結果となるのである。ある教師は鑑賞教育に、ある教師は歌唱教育に、創作教育に、器楽教育に、それぞれの効果をあげ得ることは、もちろん望ましいことには違いないが、それはあくまで、音楽諸作業の有機的学習の上に立ってのことであることを前提としたいと考えている。

以上の点から考えて基礎的学力の結果は本校の教育の進め方を正常化していくという点で、研究成果はむしろ今後具体的に出てくることを期待したい。

V 今後の見通し

- (1) 生徒が音楽学習は他の知的学科よりも大切でないという精神的なハンディキャップを学習面にどうしてカバーしていくべきかの問題。
- (2) 学習効果をあげるために音楽学習の各作業をどのように有機的に取り扱うべきかの問題。
- (3) 歌唱困難な生徒及び音楽学習を好まない生徒の指導をいかにすべきかの問題。

以上の3点にしぼって今後の指導法を研究してみたい。